

女夫石遺跡発掘調査速報

No.47

以前 (No.16) でも、埋甕 (うめかめ) のことを紹介しましたよね。今回はちょっと珍しいというか、埋甕にも色々な個性があることを皆さんに知ってもらおうかと思います。「また、埋甕か〜」なんて思わずに読んでくださいね!

何だか急に寒くなってきました。これからドンドン寒くなるんですよ、北風ピューピュー吹いて、調査を手伝っている皆さんもつらそうです。体の温まる差し入れ、心の温まる差し入れを待っています (本気ですよ)。



横から見るとこんな感じです。



この石を取り上げてみたら、何と下には土器が埋まっていたのです。口の部分は開けて割れちゃっているけど、もともとほぼ完全な形で埋められたことが分かりますよね。土器を埋めた後に、その上に石をのせたみたいだね。

ここに土器が埋まっていることをアピールしているかのようだよね。土器に亡くなった人を埋葬しているんだったら、今の墓標 (ほひょう) みたいなものなのかな? それとも土器の中に亡くなった人の魂 (たましい) を封 (ふう) じ込めるためののかな?

女夫石縄文人に聞いてみたいや!

沢リ: 埋甕 (うめかめ) が増えたみたいだよ。この前 (No.16) のもちよっと変わっていたよね。今回のも面白いよ! No.38 で紹介のあった石を敷いたような土坑の石を取り上げたら、土器がまるまる埋まっていたんだってさ! 図面を取っていた人も担当者もビックリだった!

マキ: まさかね……。あっちでも埋甕を調査しているけど、底を抜いた土器が逆さまになっているけど、穴と土器のすき間に石器や大きな土器のかけらを入れているみたいだよ。

沢リ: あそこでは、埋甕の埋まっている穴の底に石を入れてあったみたいだよ。埋甕といっても本当に個性があるんだね。

マキ: そうだね。竪穴住居跡の中にあるか、外にあるのかが、大きな違いだけど、それ以外にも色々だね。お墓だとしたら、亡くなった人の違いが埋甕の個性に関係しているかもね。

沢リ: 考えなきゃいけないことがたくさんあるね! (つづ)

上の写真の埋甕は胴部の途中から上の部分を打ち欠いてから逆さまにして埋めたんだね。しかもすき間に土器の破片や石器を詰めているね。

下の写真の埋甕は口の部分を上にして埋めているね。少し斜めになっているね。穴の底には石が埋められているね。

埋甕っていても、逆さにしていたり、半分くらい壊した土器を使ったり、いろいろ個性があるね。何か意味が違うのかな〜?

